

文化財だより 第126号

磐田市教育委員会教育部文化財課 平成27年9月1日発行

- 旧見付学校校舎落成140周年&合併10周年記念 特別企画展『磐田の小学校～今むかし』 P1～2
- 磐田の近代遺産 幻の光明電鉄を追い！① P3
- 戦争の記憶をたずねるバスの旅 P4
- コラム『初盆の儀式 昔ながらの風習』 大箸 清雄 P4

旧見付学校校舎落成140周年記念 & 合併10周年記念

特別企画展

磐田の小学校～今むかし

旧見付学校 1階西側展示室にて平成28年3月31日まで開催中！ <パネル展示>

- 開館時間：午前9時～午後4時30分まで ■休館日：月曜日、祝日の翌日、12/29～1/3
- 問合せ：旧見付学校 磐田市見付 2452 TEL 0538(32)4511

旧見付学校の歴史はさまざまなところで語られてきましたが、磐田市には合併当初23校の小学校があり、それぞれの伝統と校風を生かした教育が進められてきました。今回は市内の校舎を中心に、市内の学校のあゆみをたどってみました。

写真を集めていると、いろいろなことがわかってきました。例えば・・・

↓ 竜洋西小学校
大正4年に現在地に建設



1 明治中期から後期に広い校地を求めて田畑の中に新校舎を建てている学校が多かったです。



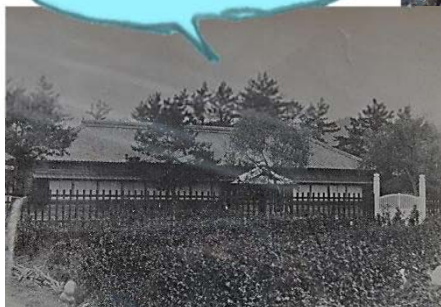
↑ 田原小学校（昭和31年撮影）

豊岡北小学校はなんと！明治初期の仮校舎から現在まで校舎の場所が変わっていないんです。

2



↑ 豊岡北小学校
グラウンドを少しずつ拡張していきました。



↑ お寺の周りに建設された明治時代の校舎（野部学校・現在の豊岡北小学校）

明治5年(1872)に出された学制に基づき、当時の濱松県は現磐田市内に10の小学校区を設け、学校を造ることを奨励しました。市内の学校区は、いずれも明治6年(1873)に本校や分校を立ち上げています。町、農村部、漁業部のへだてなく学校が造られたのは、当時の人々の意識の高さを表しています。そして、それらの本校や分校の歴史が、合併当初(平成17年)の23の小学校につながっています。

現在市内の小学校の校舎はすべて鉄筋コンクリートになっていますが、航空写真などを見ると、運動場も整備され、機能的な美しさも感じられます。年配の方々が木造校舎に愛着を持っているように、現代の子どもたちが大人になったとき、今の校舎のすばらしさを語ってくれたらいいな・・・と思っています。

3

福田小学校はいくつもの学校が統合したり名前を変えたり・・・複雑な歴史があるんです。



↑ 竜洋東小学校の門



↑ 明治末頃の福島尋常小学校
(現在の福田小学校)

4

竜洋東小学校の門は大正7年に造られ、今そのまま使われています。

すてき！

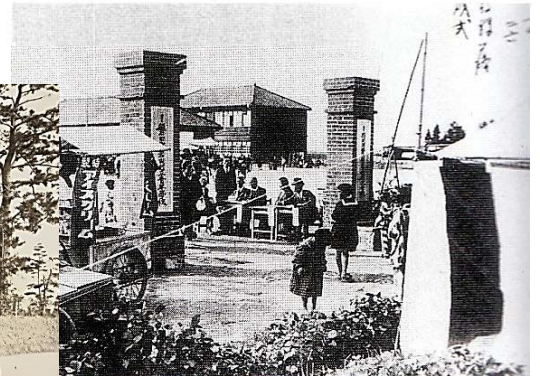


5

明治・大正時代におしゃれな門を造った学校が多いんです。



↑ 昭和5年に造られた磐田西小学校の門



↑ 大正6年に造られた岩田小学校の門

6

鉄筋の校舎のはじまりは豊田南小学校。昭和29年に建てられ、豆腐の学校と呼ばれていました。



↑ 建設当時(昭和29年)の豊田南小学校

え〜っ！豆腐？



7

磐田は戦災が比較的少なかったため、明治大正時代の校舎が戦後も使われていました。



↑ 大正2年から昭和43年まで使われた校舎
(城之腰校舎 現在の磐田北小学校)

8

子どもたちの服装は、昭和10年頃に大きな変化があり、洋服が一気に増えました。



↑ 大正12年の運動会の様子。運動会も着物です。(岩田小学校)



↑ 昭和16年頃の体操の様子。全員が洋服になっています。(向笠小学校)

磐田市の近代化遺産 幻の光明電鉄を追え！

みなさんは、「光明電気鉄道」をご存知ですか？

昭和3年11月から昭和11年1月までのごくわずかな期間だけ運行していた、ファンの間では「幻の鉄道」とされる鉄道です。

今回、5回シリーズで特集し、市内に残る光明電鉄の痕跡を探ってみたいと思います。

光明電鉄とは？

光明電鉄は、今の磐田駅付近(新中泉)から見付・岩田地区などを通り、豊岡地区を抜けて二俣町までの19駅間・19.79kmを約38分で走っていた路線です。

当時としては珍しい、電気鉄道でした。最終的には船明までの22.6kmまで延伸し、銅鉱石などを運ぶ大きな構想がありました。

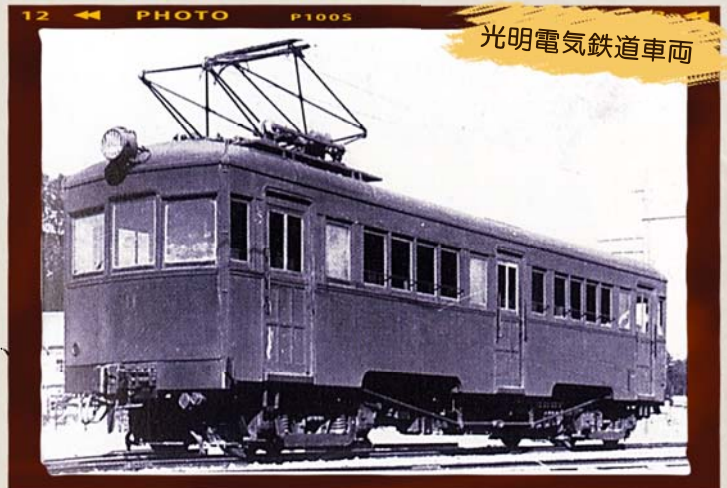
しかし、昭和恐慌など国内の経済が混乱した悪い時期に当たり、また資金調達や収支も当初予定していたより順調ではなかったことなどから、昭和5年12月の二俣町開通記念式典から2年余後の8年1月には破産宣告を受けています。この宣告は取り消しになったものの、債権者との和議は不成立に終わり、会社は競売にかけられてしまいました。

今も残るナゾのマンホール

磐田駅北口の横断歩道の脇にさりげなく設置されたマンホール。よく見ると、中央に見慣れないマークが入っています。

調べてみると、光明電鉄のマークだと思われます。パレードの提灯にも同じようなレール断面のマークでしょうか、その外を囲う枠には「光」の文字がデザインされているように見えます。断言できませんが、光明電鉄の遺産だとすれば夢がある話ですね。

(古写真は「磐田の記録写真集」「磐田の産業」から転載)



起工式祝賀パレード (大正15年)
見付・淡海国玉神社



「光」の文字に見えます

戦争の記憶をたずねるバスの旅

参加者募集

戦後70年、平和を引き継いでいくための新たな一歩



見付・中泉地区の空襲被災地など戦争の記憶を伝える場所をたずね、当時のお話を聞きます。子どもさんやお孫さんと一緒に、平和への思いを広げるバスの旅をしませんか？



↑子ども厄よけ地蔵

訪問先

三本松(富士見町)空襲被災地 → 見付子ども厄よけ地蔵
→ 磐田農高平和の願い慰霊碑 → 石原町田中神社空襲被災地 →
見付交流センター(意見交換会) ※①~③では体験者のお話があります。

日時・・・平成27年9月26日(土) 13時~17時
小雨実施(荒天延期・日は未定)
集合・・・磐田北幼稚園駐車場(13時)
定員・・・申込先着25名(無料)
申込み・・・9月1日(火)~18日(金)の間に、電話で
歴史文書館へ(TEL 0538-66-9112)



コラム

初盆の儀式 昔ながらの風習 大箸 清雄

市内の多くは、8月にお盆の供養が行われています。そのスタイルや取組み方法は地域により異なり様々な様相を見せています。今日では、悪い意味ではなく、いろいろな事情からその内容を簡略化したり、代用品で対応するなど、現代風に変化しているようです。

今回は、今でも旧豊岡村の一部で見られる、初盆に松明を焚く台や庭先に設置する施餓鬼棚(精霊棚とも言う)や「なす」と「きゅうり」で作る牛と馬、あるいは、初盆を迎えるための仏壇など、昔ながらの手法で行われている様子をご紹介します。そこにはちゃんとした意味合いがあり、亡者(初盆を迎える故人)に対する礼節を重んじた儀式なのです。



松明を焚く台



初盆を迎えるための仏壇

例えば、馬と牛は、亡者を少しでも早く迎え入れるために馬で駆け知らせ、帰りは牛がお供物をいっぱい背負ってゆっくり帰ってほしいとの願いがあるとされています。また、仏壇へのお供え物は、亡者が食べられる物でなくてはならず、缶や瓶などに詰めたものや肉類や魚介類なども避けるべきと説いています。

親族のご供養のために行う儀式でありますから、礼節を重んじ、清い心で取組みたいものです。

編集後記

歴史文書館企画展「遠州報告隊と日本の近代」は9/5~13の間、会場を中央図書館に移して開催します。見逃した方はこの機会にぜひ!【文化財だより第125号の訂正をお願いいたします】1頁城之崎城と見付宿の文中に誤りがありました。「元禄12年」→「永禄12年」です。申し訳ありませんでした。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699
◆WEB版文化財だよりは市HPから閲覧できます。